

災害対策課

【令和8年4月20日】 北海道・三陸沖後発地震注意情報 発表に関する市民アンケート調査結果

調査目的： 令和7年12月8日（月）に当該注意情報が初めて発表され、アンケートを実施しました。
今回の発表に伴い、再度アンケートを実施し、皆様の行動の変化や、行政に対する意見などを
分析することで、今後の防災施策の参考とします。

調査期間：令和8年6月1日（月）～6月30日（火）

調査方法：Webアンケート

対象者：いわき市民

広報媒体：市SNS（6/1、6/15）、世帯回覧（13,492世帯）

調査項目：日頃からの災害への備え
後発地震注意情報発表時の情報収集方法
後発地震注意情報発表後の災害への備え など

回答者数：1,286名（N=1,286）

質問一覧



- ① 問1～問4 【回答者の基本情報 (性別 / 年代 / 居住地 / 世帯状況)】
- ② 問5～問6 【津波浸水想定区域、後発地震注意情報の認知度について】
- ③ 問7～問12 【災害への日頃の備え、情報収集方法について】
- ④ 問13～問15 【後発地震注意情報に係る市の対応等に対する意見】

調査結果概要

1 【情報認知】

当該注意情報を「以前から知っていた」という割合は前回と比べて16ptアップ

- 徐々に認知度が上がってきている。
- 災害リスクの高い地区に住む住民ほど防災に対する意識が高い傾向

2 【日頃からの災害への備えの傾向】

年齢が高くなるにつれて日頃からの備えを行っている。

- 災害リスクを把握していない人や中山間地域では備えをしていない傾向

3 【情報入手媒体】

約70%がテレビや行政の発信で情報を把握

- 各世代がSNSにより情報を入手していた。
- 30歳代以上では多くの方が「福島県防災アプリ」を活用していた。

4 【情報発信後の備えの傾向】

後発地震注意情報後の備えの内容は、水・食料の追加備蓄やガソリンの給油が多い。また、予定していた旅行を変更している人もいた。

- 「もしも」に備えた活動が見られ、災害を「じぶんごと化」としていた。

5 【備えをしなかった理由】

正常性バイアスにより行動を取らなかった人は前回と比べて約20pt減少

- 「以前から備えをしていたから」と回答した方に対しても、当該注意情報が発表された場合は、再度備えを確認いただけるよう行動をとっていただく必要がある。

今後

引き続き【既存事業の強化】を図っていく
防災教育

- ・後発地震注意情報の周知
- ・過去災害の風化防止
- ・平時の備えを周知など

総合防災訓練

- ・訓練内容の充実強化
- ・若年層の参加促進など

情報発信

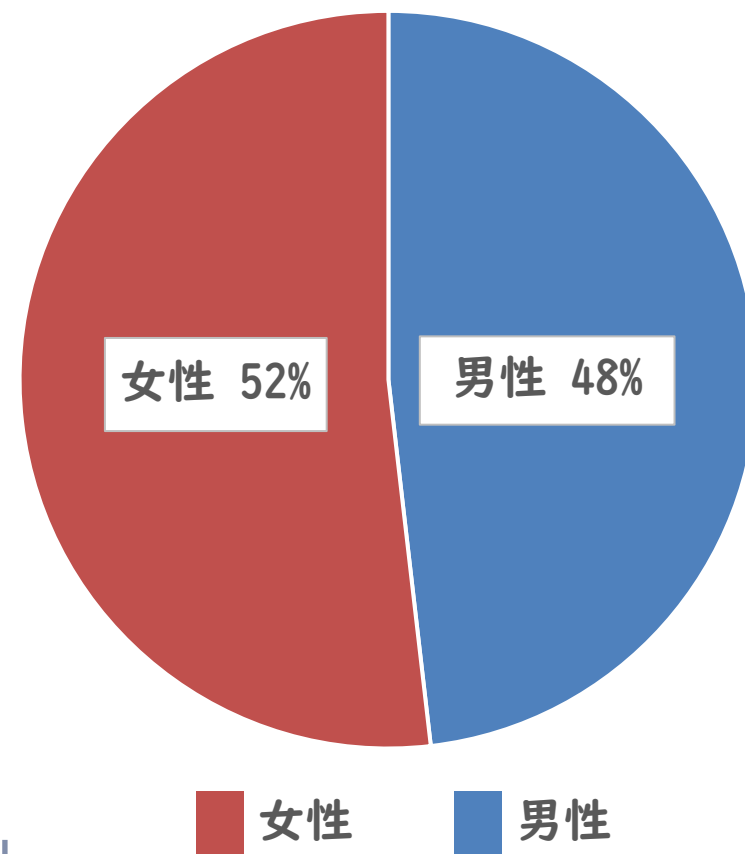
- ・SNSでの発信強化など

もしもを日常に

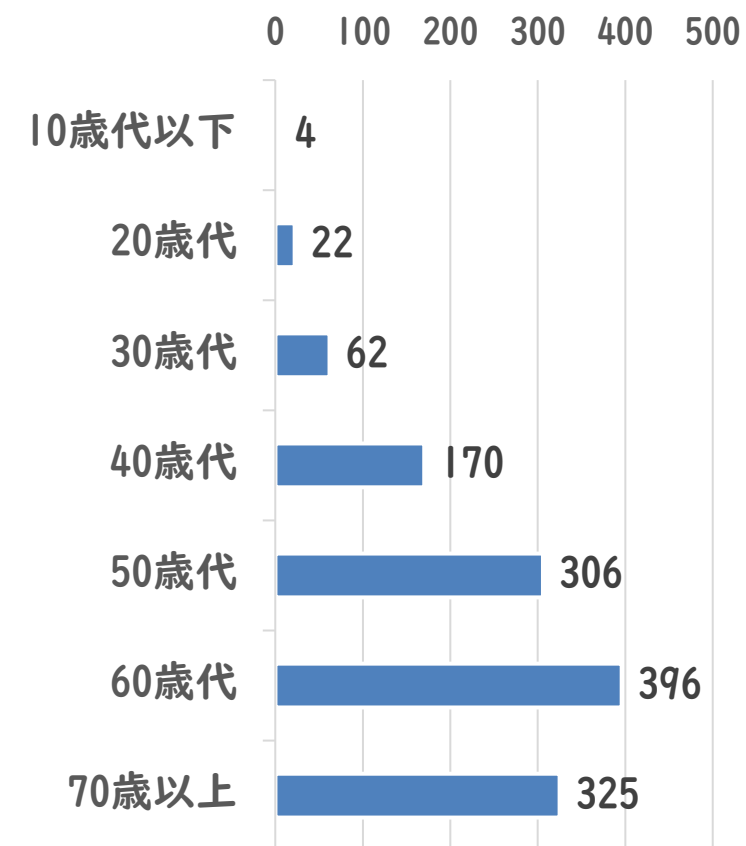
「逃げ遅れゼロ」
「災害死ゼロ」

①【回答者の基本情報 (性別 / 年代 / 居住地 / 世帯状況)】

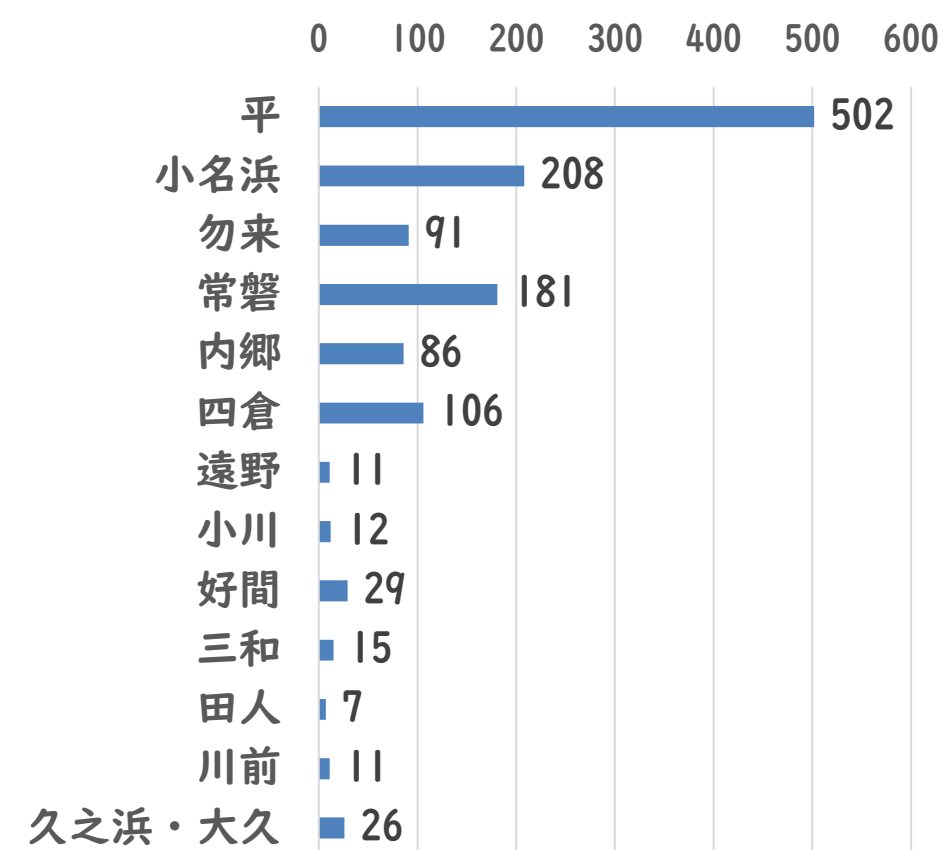
問1 性別



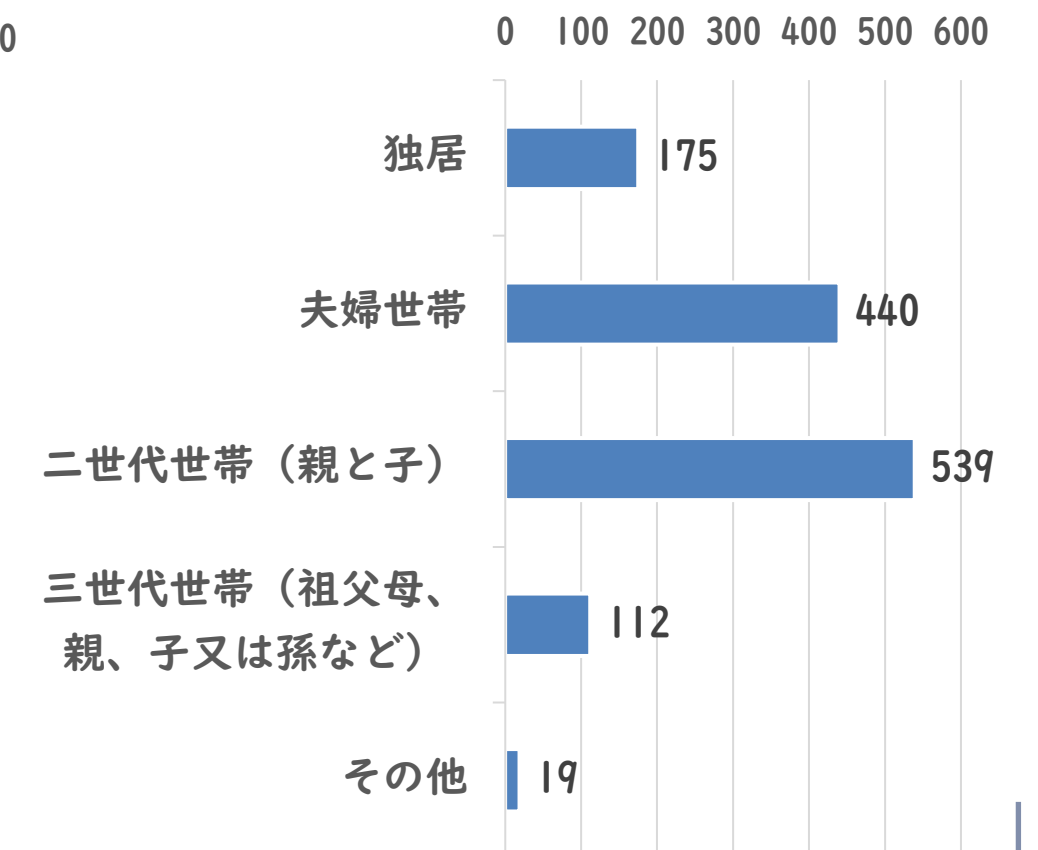
問2 年代



問3 居住地

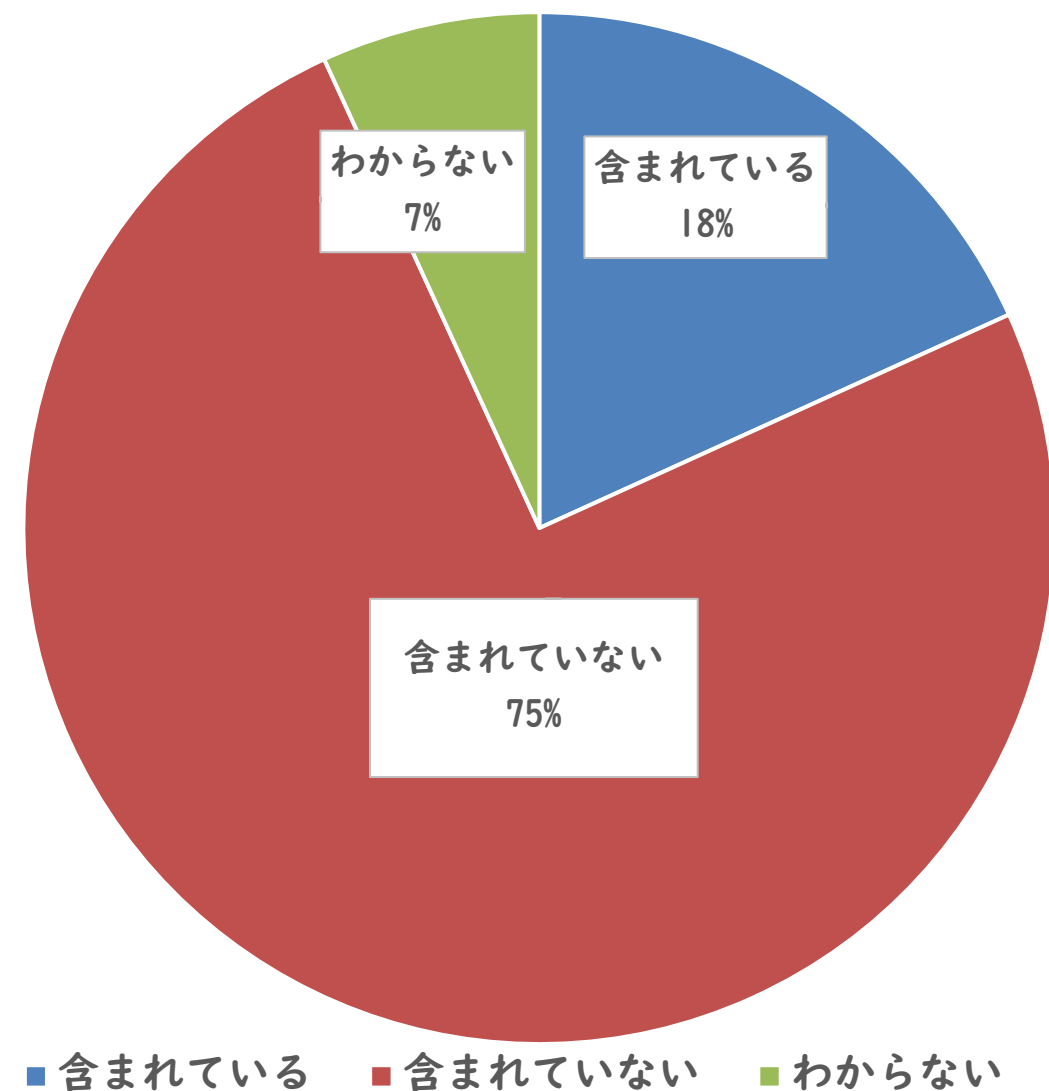


問4 世帯状況



②【津波浸水想定区域、後発地震注意情報の認知度について】

問5-1 自宅は津波浸水想定区域に含まれていますか。



「含まれている」 ▶ 18%
「含まれていない」 ▶ 75%
「わからない」 ▶ 7%

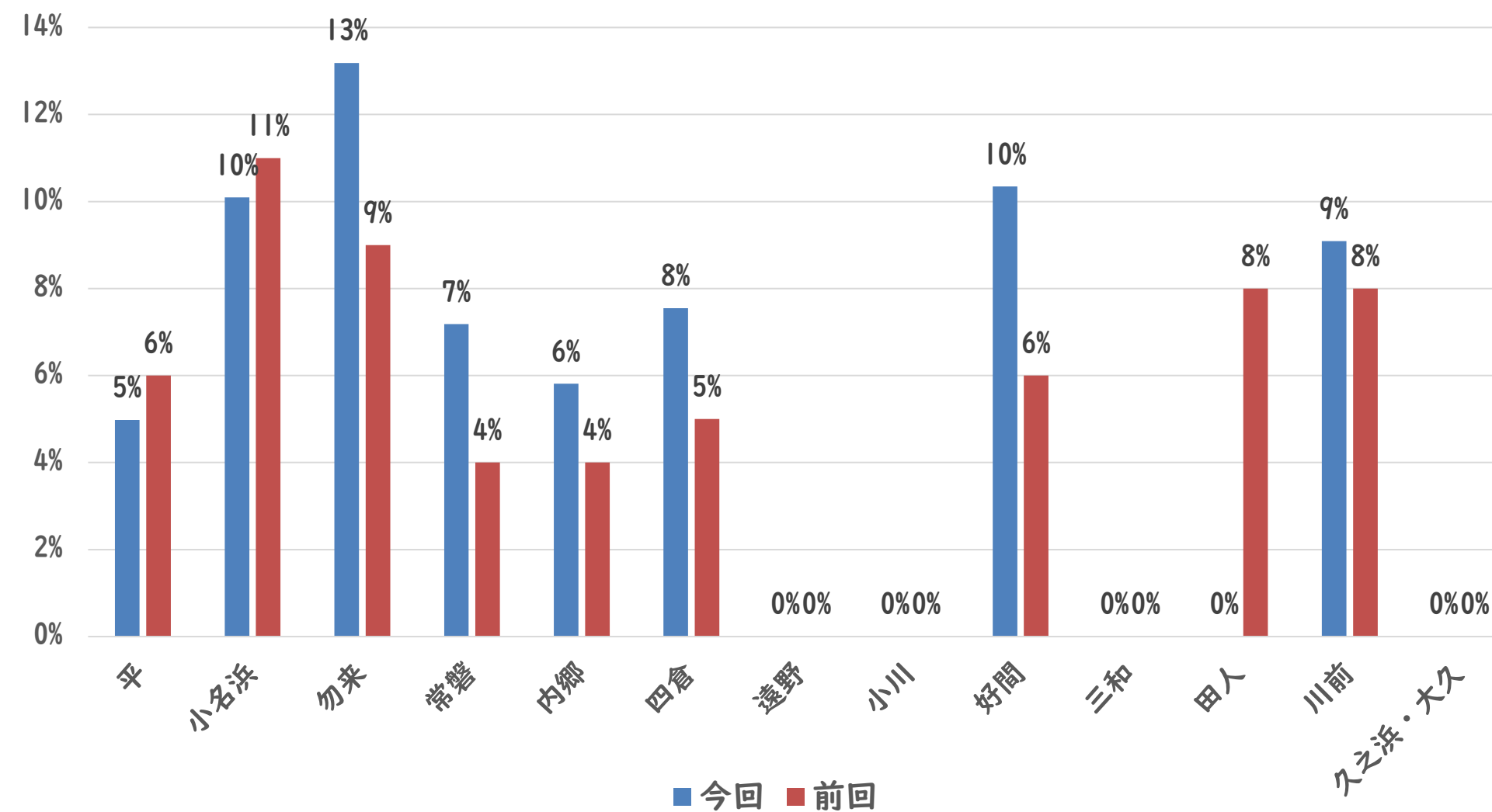
自宅が区域に含まれているかを
把握していない人の割合は
前回比1 ptダウン 👍



②【津波浸水想定区域、後発地震注意情報の認知度について】

問5-2 自宅は津波浸水想定区域に含まれていますか。

各地区の回答者のうち、「わからない」と回答した人の地区別内訳



地区別で比較したところ、10%前後の人が「わからない」と回答



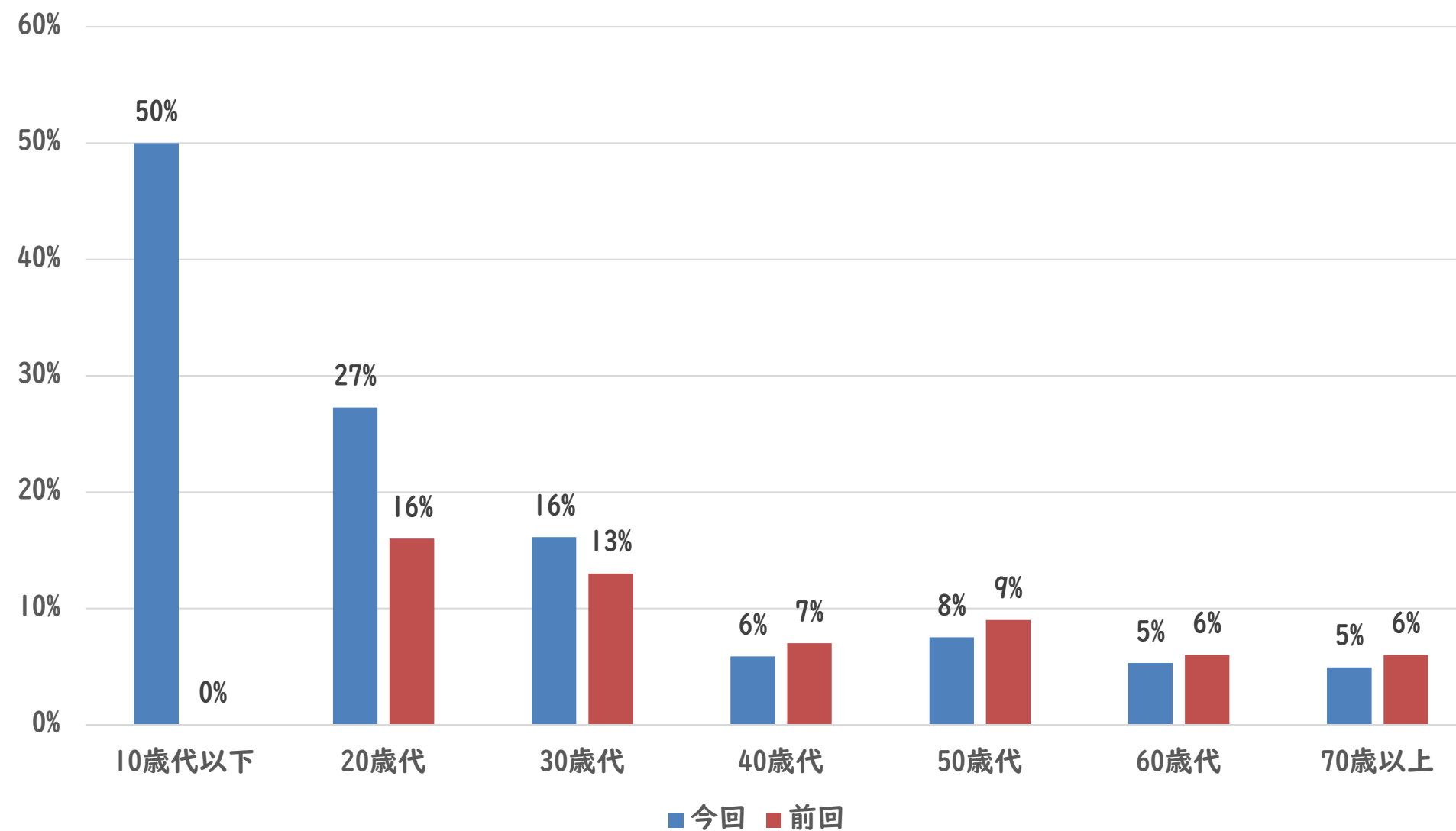
前回アンケートと比較しても、大きく改善はしていない。



②【津波浸水想定区域、後発地震注意情報の認知度について】

問5-3 自宅は津波浸水想定区域に含まれていますか。

各世代の回答者のうち、「わからない」と回答した人の年齢別内訳



年代別で比較したところ、年代が低くなるほど「わからない」と回答している人が多い

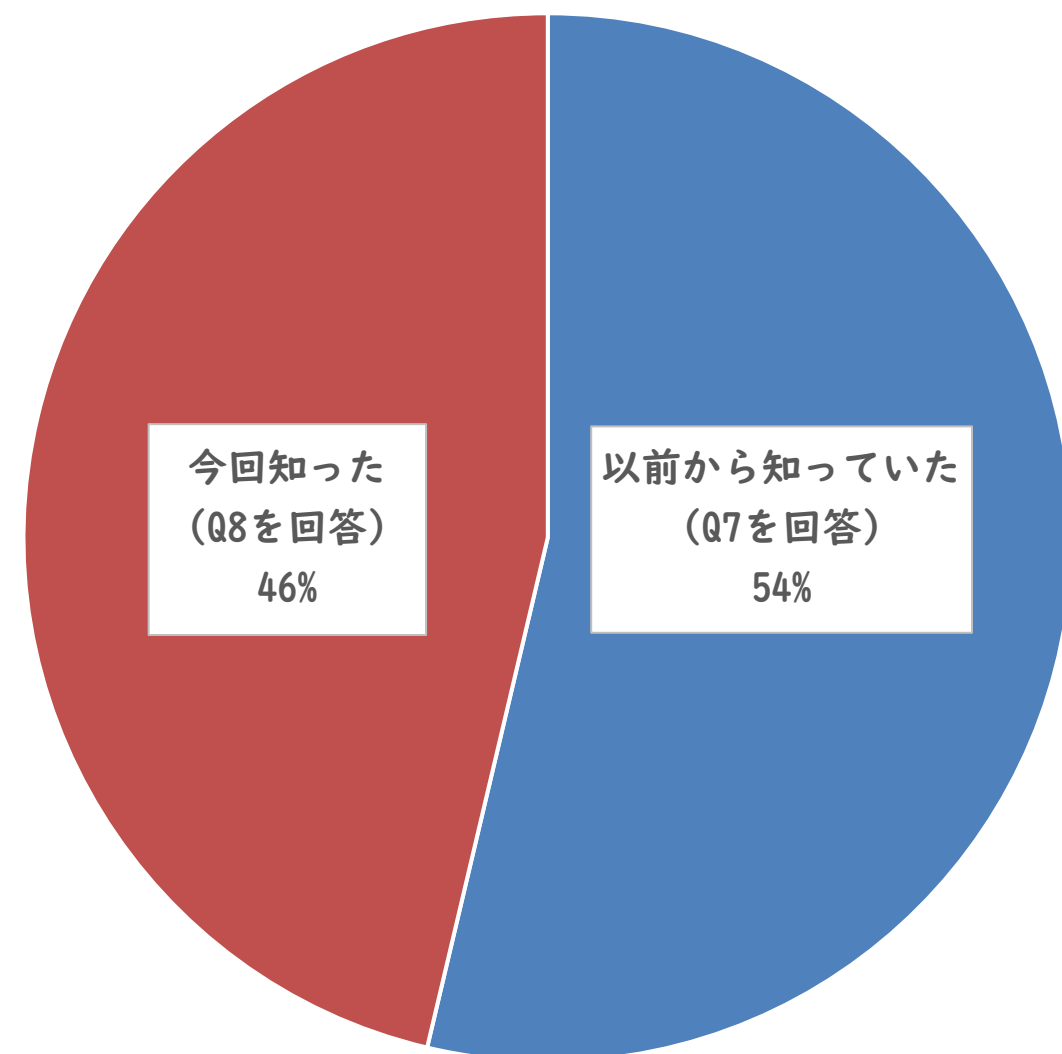


前回アンケートと比較しても、大きく改善はしていない



②【津波浸水想定区域、後発地震注意情報の認知度について】

問6-1 北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表される前からこの情報を知っていましたか。



■ 今回知った (Q8を回答) ■ 以前から知っていた (Q7を回答)

「以前から知っていた」 ▶ 54%

「今回知った」 ▶ 46%

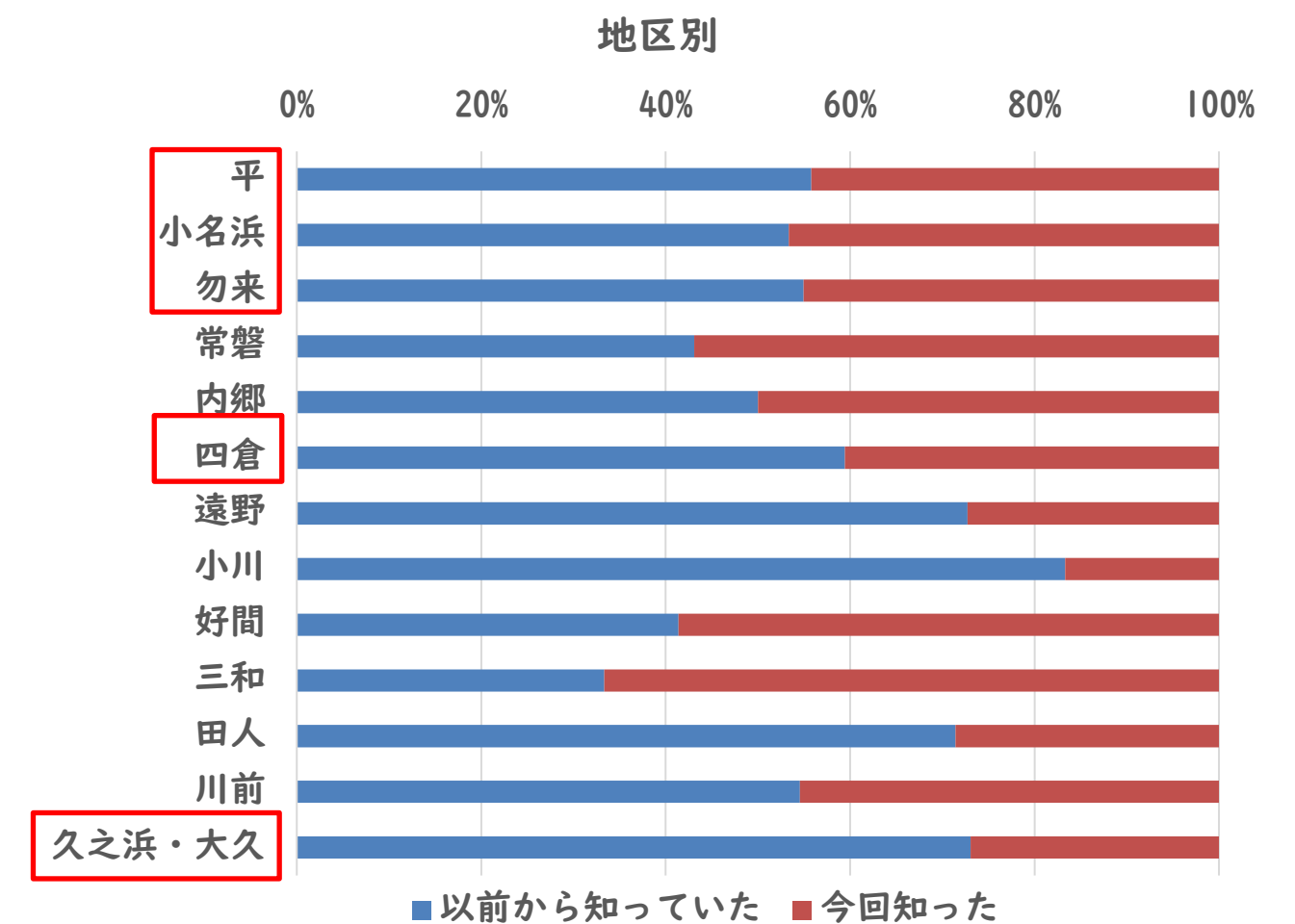
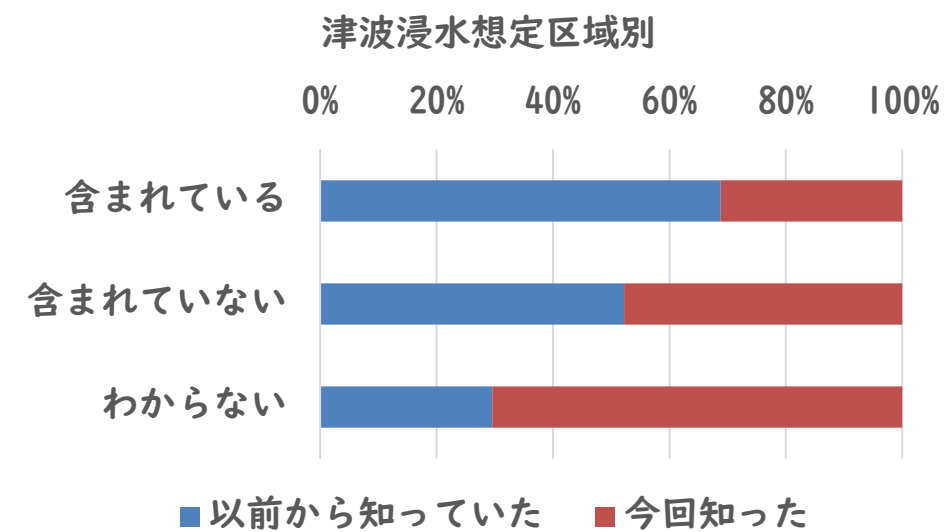
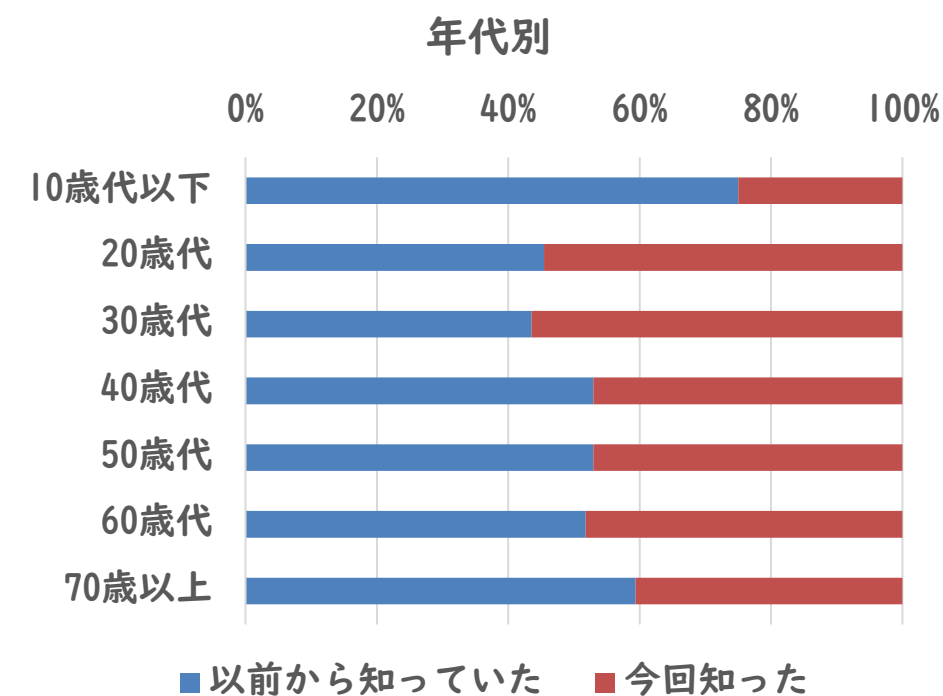


「以前から知っていた」は
前回と比較して16ptアップ！
当該注意情報の認知度が
上がっている 👍👍👍



②【津波浸水想定区域、後発地震注意情報の認知度について】

問 6 - 2 北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表される前からこの情報を知っていましたか。



久之浜・大久

沿岸部 5 地区

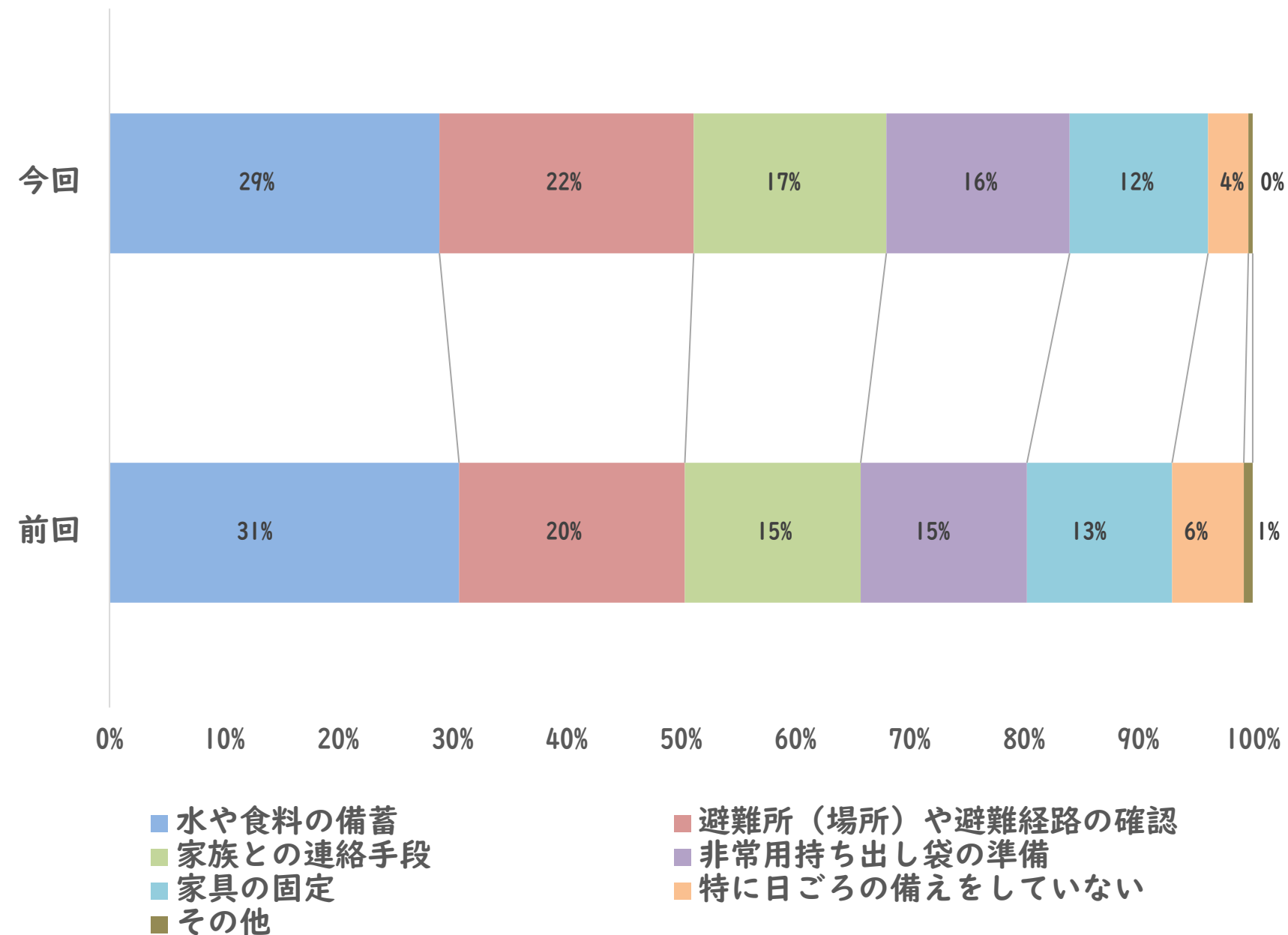
年代別で大きな変化はない。
津波浸水区域内に居住する住民ほど
当該注意情報を以前から把握している

災害リスクの高い地区に住む
住民ほど防災に対する意識が高い



③ 【災害への日頃の備え及び情報収集方法について】

問 7-1 災害への「日頃からの備え」についてお知らせください。（複数回答可）



前回と比較して「特に日頃の備えをしていない」が
2 pt減少 👍👍👍

また、「避難所（場所）や避難経路の確認」、
「家族との連絡手段」、「非常用持ち出し袋の準備」
については前回と比較して増加 👍

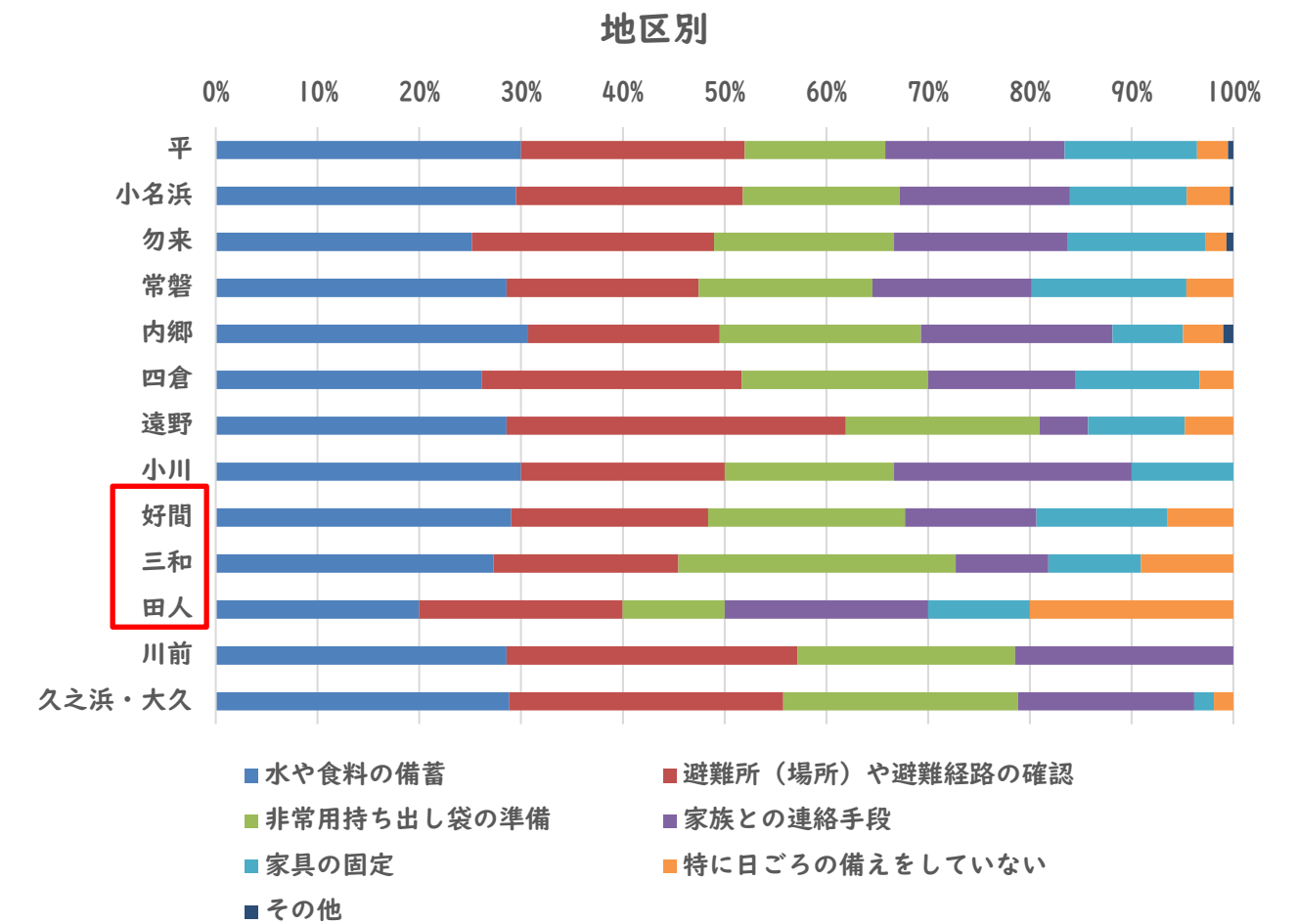
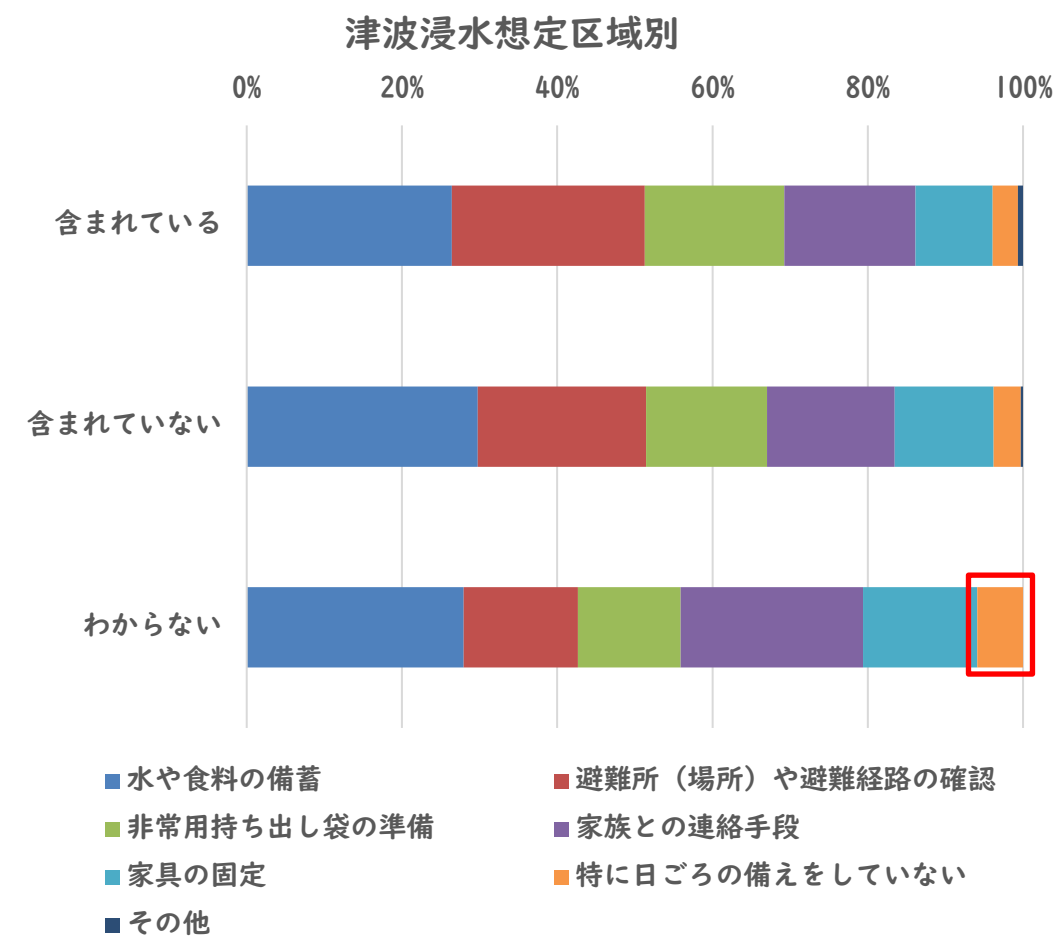
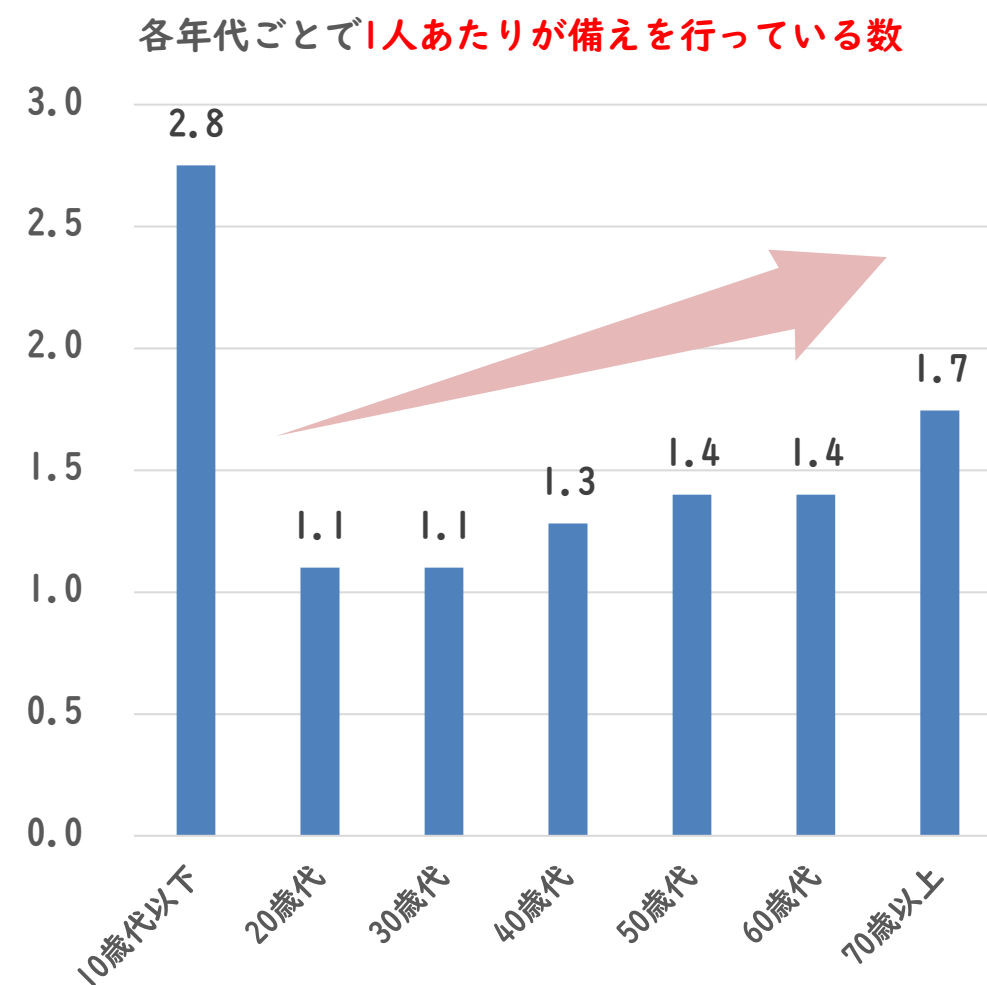
【その他】

- ・非常用トイレの備蓄
- ・ペット用品（猫砂、フード）の備蓄
- ・自家用車へのこまめな給油
- ・いわき市防災メールの受信設定
- ・家具等は高さの低いものへ変更 など



③ 【災害への日頃の備え及び情報収集方法について】

問 7-2 災害への「日頃からの備え」についてお知らせください。（複数回答可）



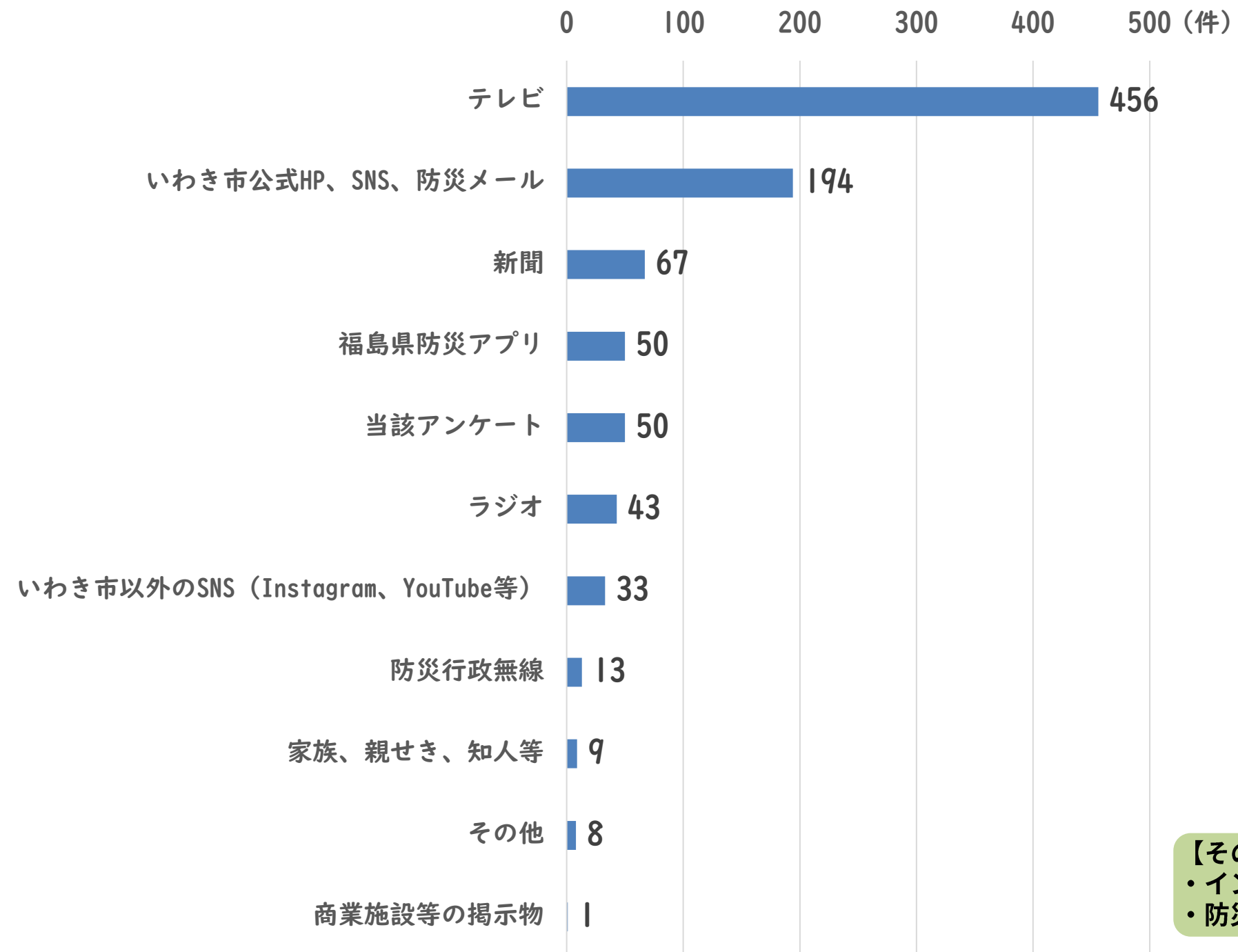
中山間地域のうち抜粋した3地区

年齢が高くなるにつれて日頃からの備えを行っている
災害リスクを把握していない人や中山間地域では備えをしていない傾向



③ 【災害への日頃の備え及び情報収集方法について】

問 8 - 1 後発地震注意情報をどのような方法で知りましたか。（複数回答可）



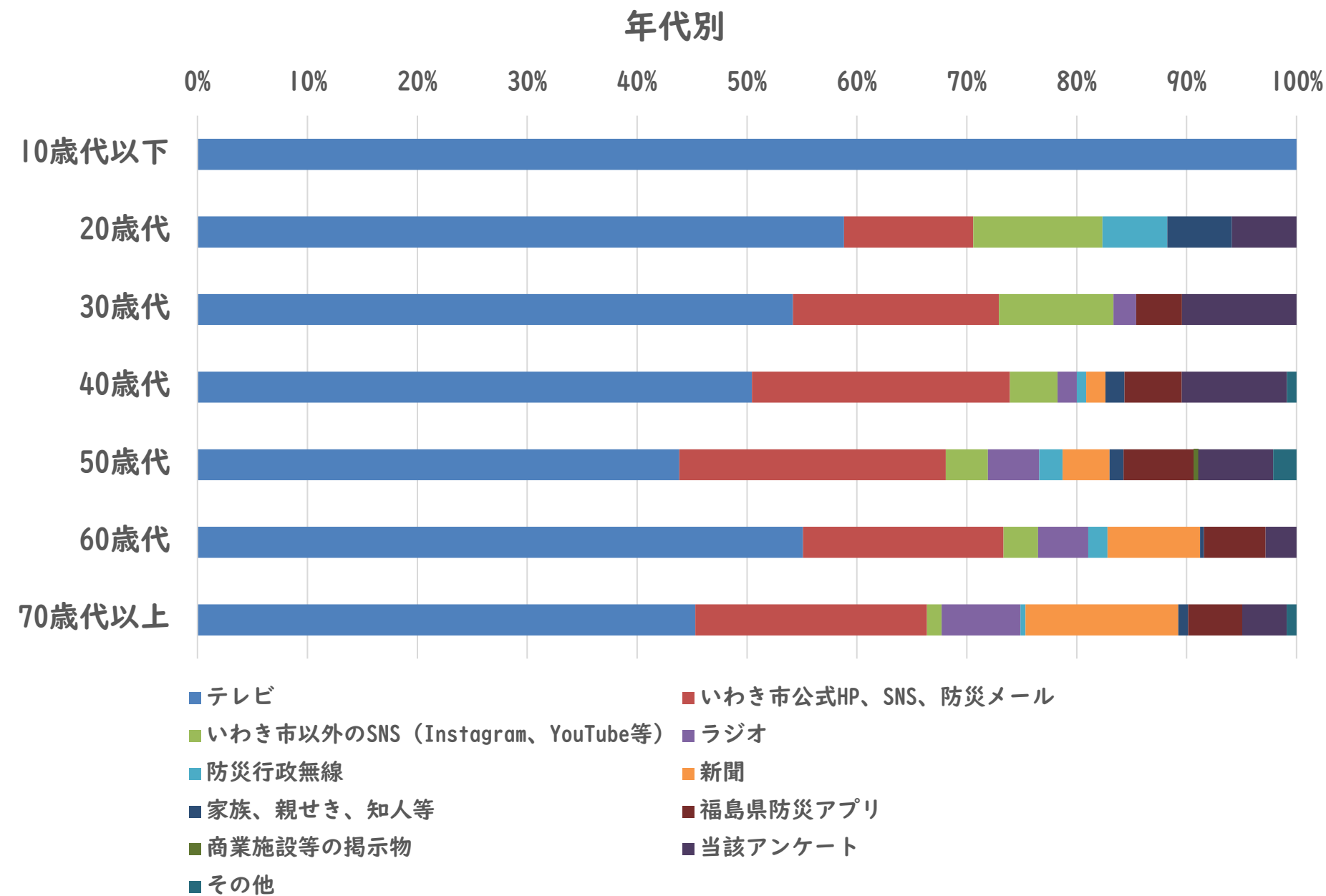
情報収集の手段として、
「テレビ」からの収集が最も多く、
前回と比較しても大きな変化はない

【その他】
・インターネット
・防災関係アプリ



③ 【災害への日頃の備え及び情報収集方法について】

問 8 - 2 後発地震注意情報をどのような方法で知りましたか。（複数回答可）



各年代ともテレビからの情報収集が最も多い

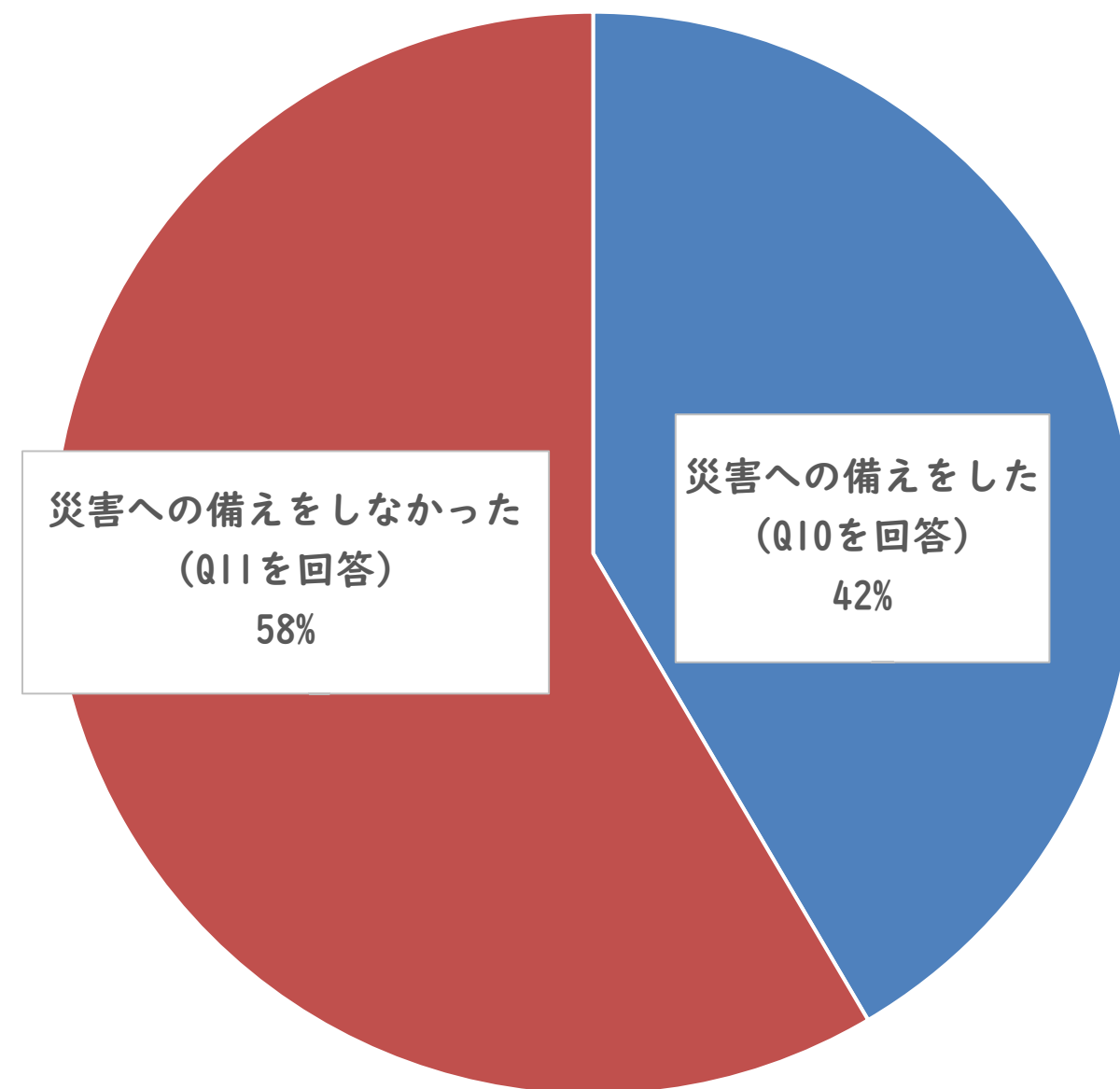


各世代でSNSによる広報が有効
30歳代以上からは、福島県防災アプリを活用



③ 【災害への日頃の備え及び情報収集方法について】

問9-1 後発地震注意情報を受けて災害への備えを行いましたか。



- 災害への備えをしなかった (Q11を回答)
- 災害への備えをした (Q10を回答)

当該注意情報を知った後に災害の備えをした人は、42%であり、前回と比較して2 ptダウンしたが



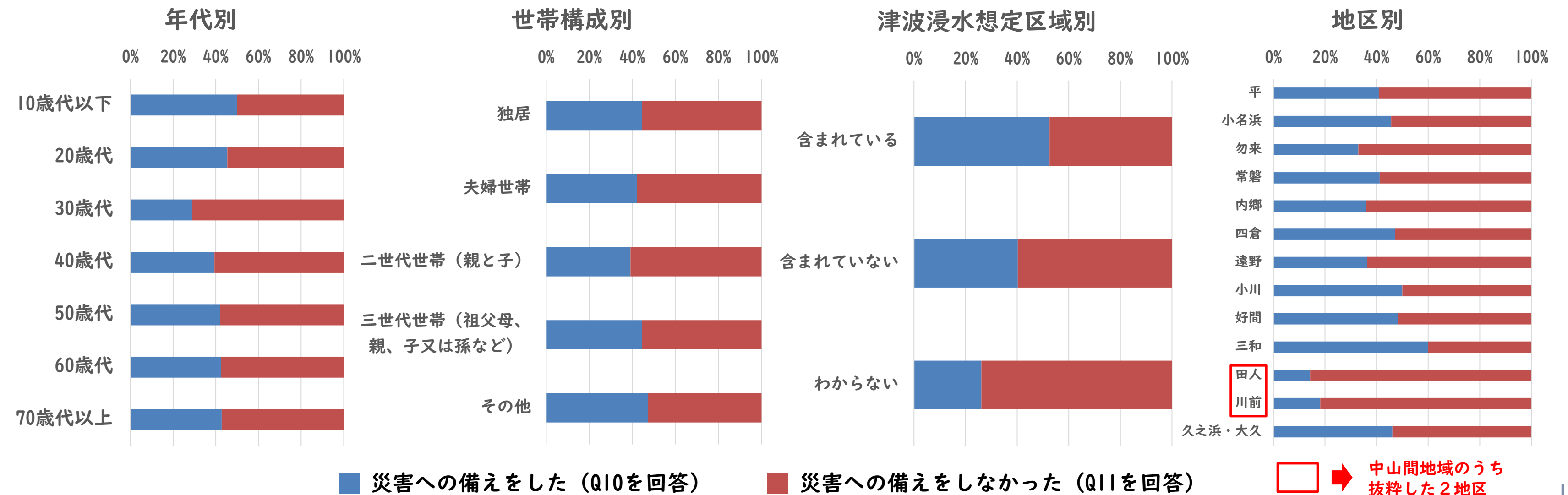
問11の災害への備えをしなかったと回答した人のうち、「以前から備えをしていたから」と回答した42%の人を併せると、**84%の人が備えている**調査結果となった。

16ページを確認！



③ 【災害への日頃の備え及び情報収集方法について】

問 9 - 2 後発地震注意情報を受けて災害への備えを行いましたか。



年代、世帯構成別で大きな差はない。

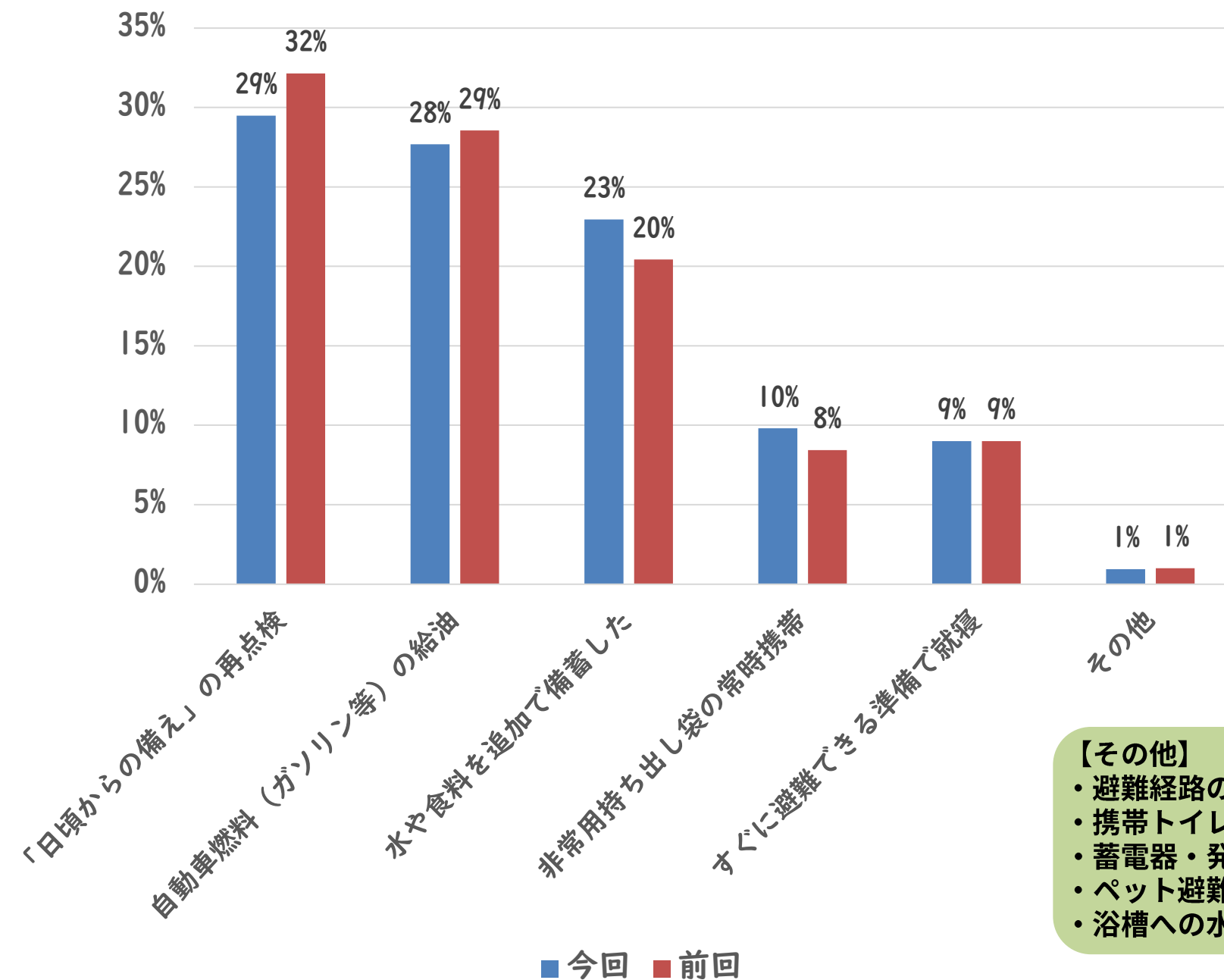
災害リスクを把握していない人や、
災害リスクが低い地区では備えていない傾向
※問7の日頃からの備えと同じ様な傾向



③【災害への日頃の備え及び情報収集方法について】

問10 後発地震注意情報が発表された後の備えについて教えてください。（複数回答可）

※問9で「災害への備えをした」と回答いただいた方を対象



前回と比較すると、大きな変化はなかったが、「非常用持ち出し袋の常時携帯」が「すぐに避難できる準備で就寝」を上回った

【その他】

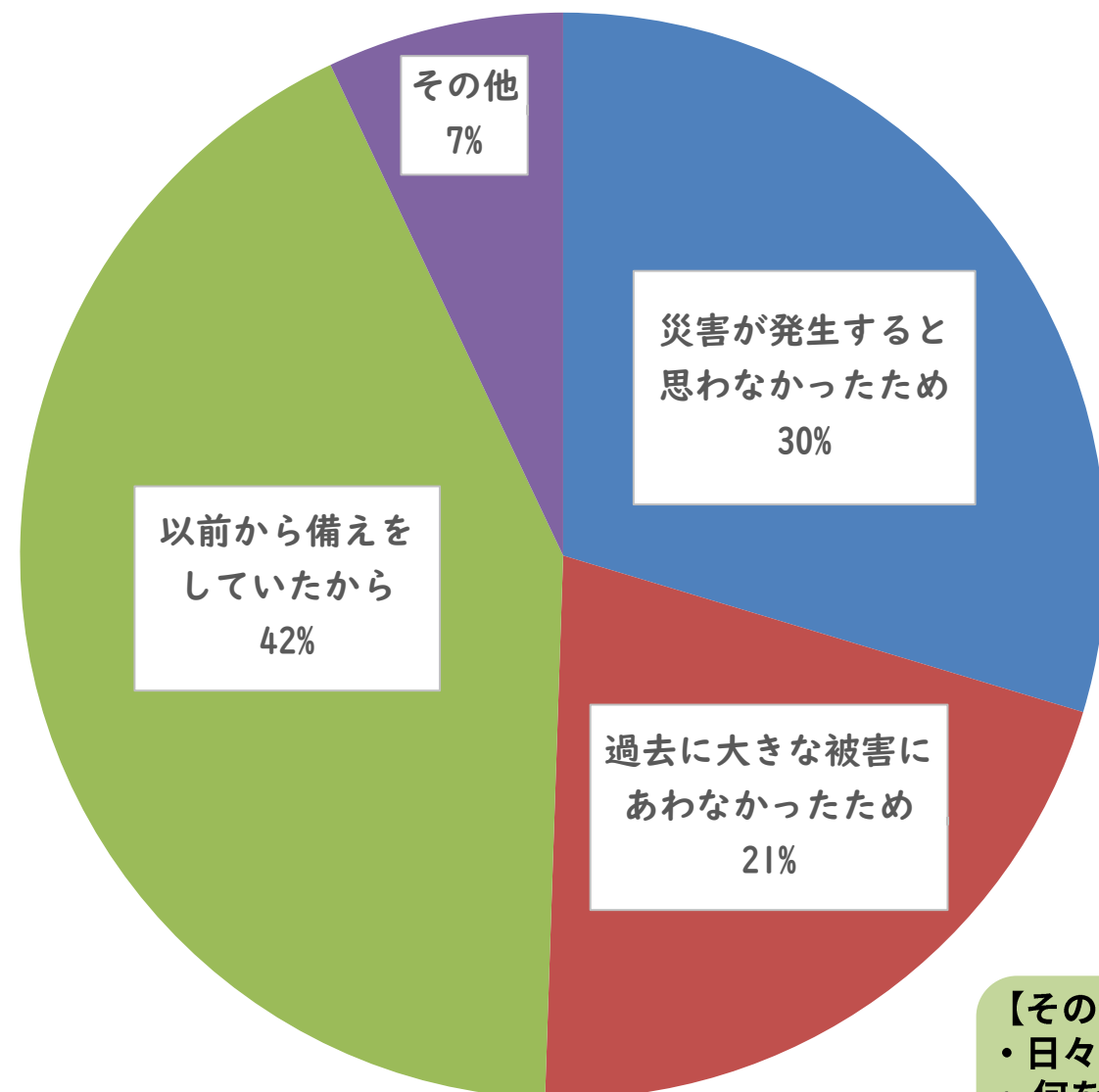
- ・避難経路の確認
- ・携帯トイレの準備
- ・蓄電器・発電機の準備
- ・ペット避難の準備
- ・浴槽への水張り（2週間程度の水確保）



③ 【災害への日頃の備え及び情報収集方法について】

問11-1 特に備えをしなかった理由をお知らせください。（複数回答可）

※問9で「災害への備えをしなかった」と回答いただいた方を対象



「災害が発生すると思わなかったため」 ▶ 30%（前回比▲18pt）👍
「過去に大きな被害にあわなかったため」 ▶ 21%（前回比▲5pt）👍



「以前から備えをしていたから」と回答した
42%の人も、再度備えの確認を促す必要がある。

【その他】

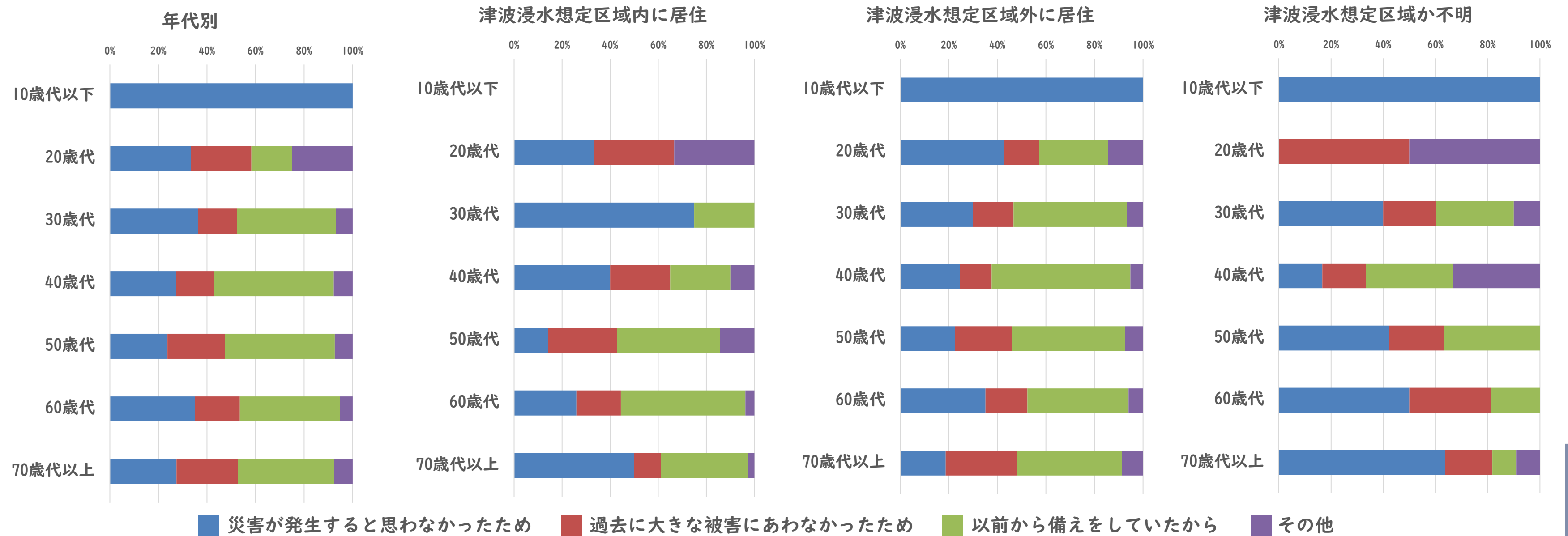
- 日々の忙しさにより後回しとなっている
- 何をすればいいかわからない（情報不足）
- 金銭的余裕がない（経済的な理由）
- 足が悪く荷物を持てない（身体的事情）



③ 【災害への日頃の備え及び情報収集方法について】

問11-2 特に備えをしなかった理由をお知らせください。（複数回答可）

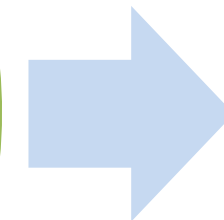
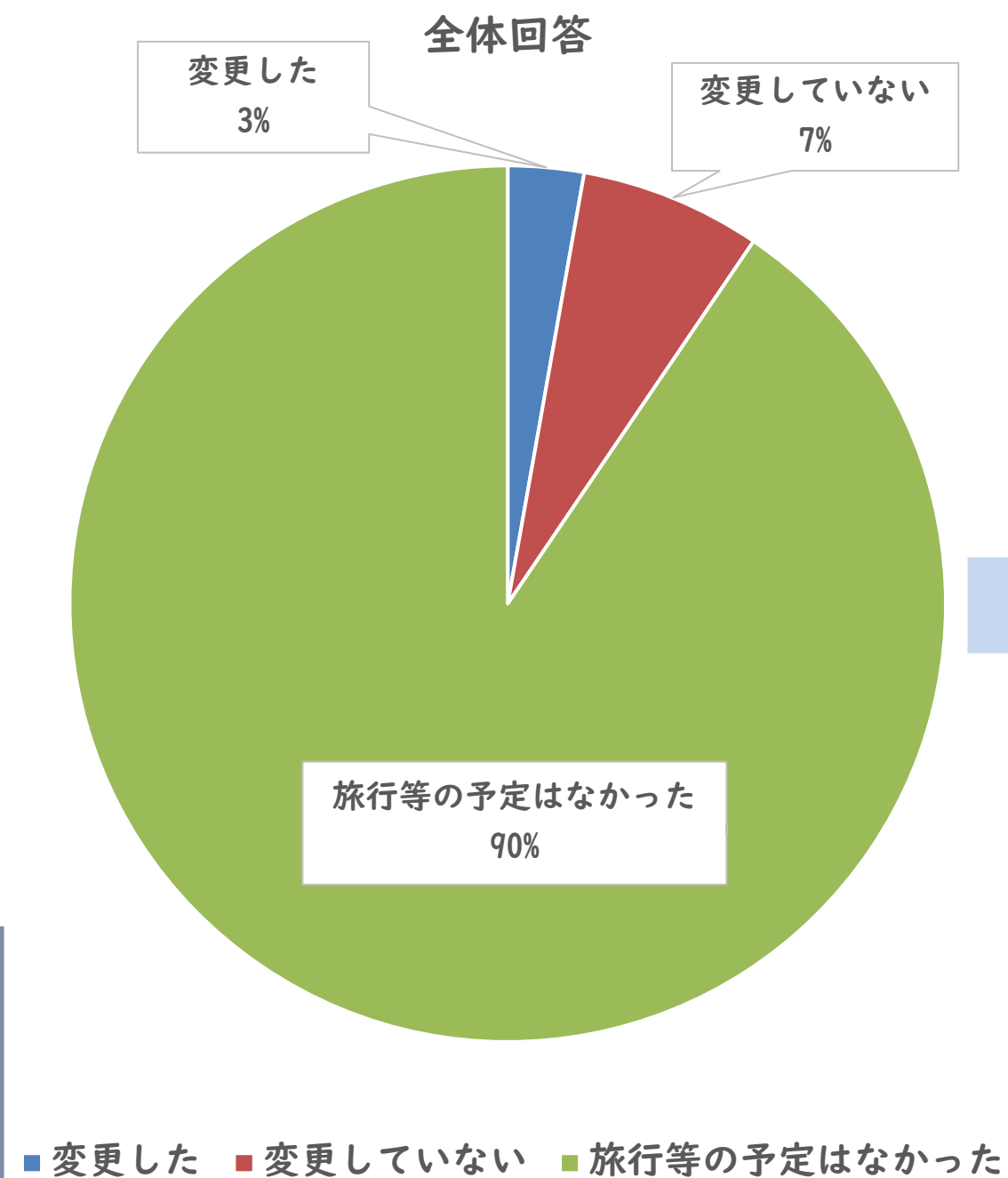
※問9で「災害への備えをしなかった」と回答いただいた方を対象



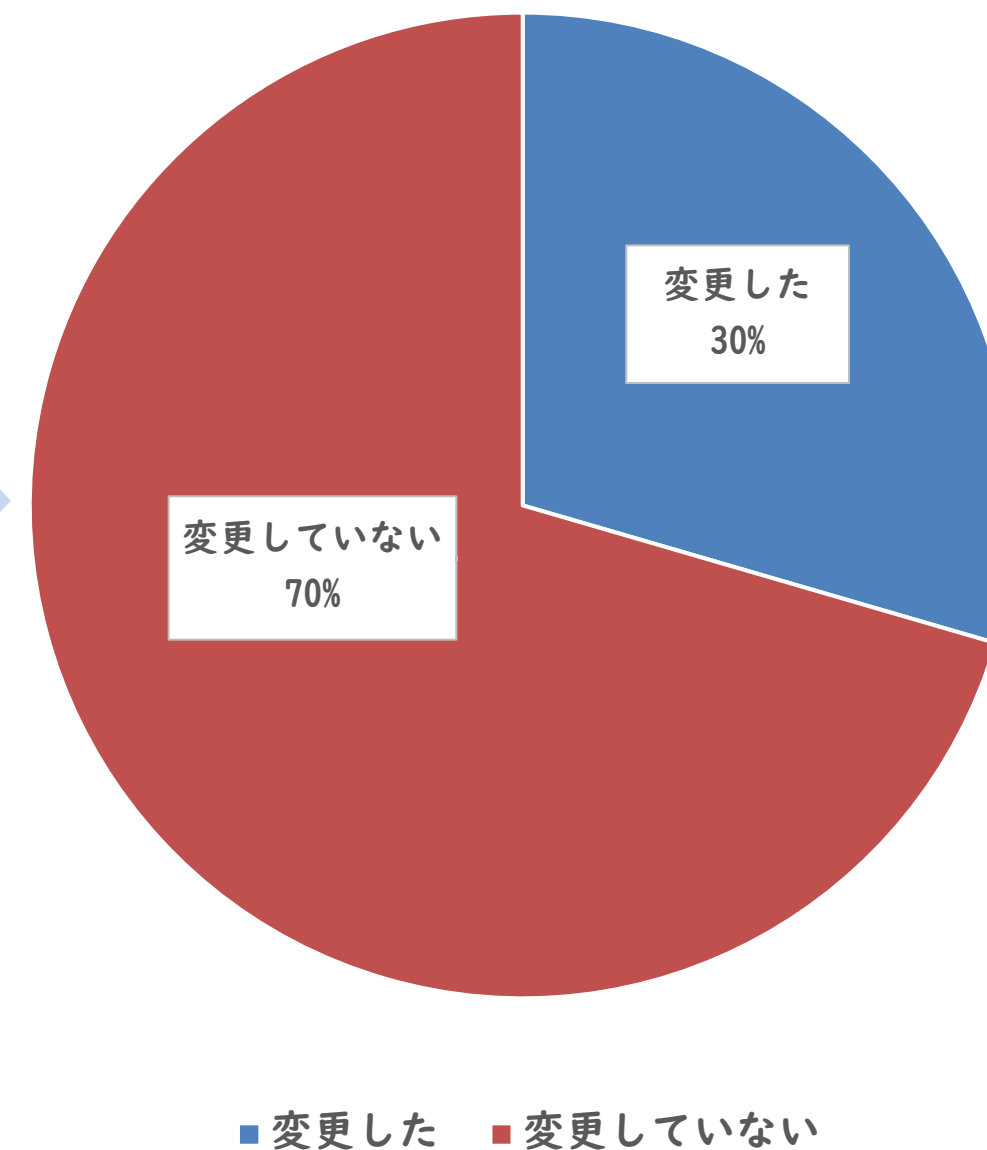
年代に関わらず正常性バイアスが働いている。また、自宅に災害リスクがあるとわかっていながらも備えていない人も多い。

③ 【災害への日頃の備え及び情報収集方法について】

問12 後発地震注意情報の発表を受けて、予定していた旅行等を変更しましたか。



旅行を予定していた人の割合

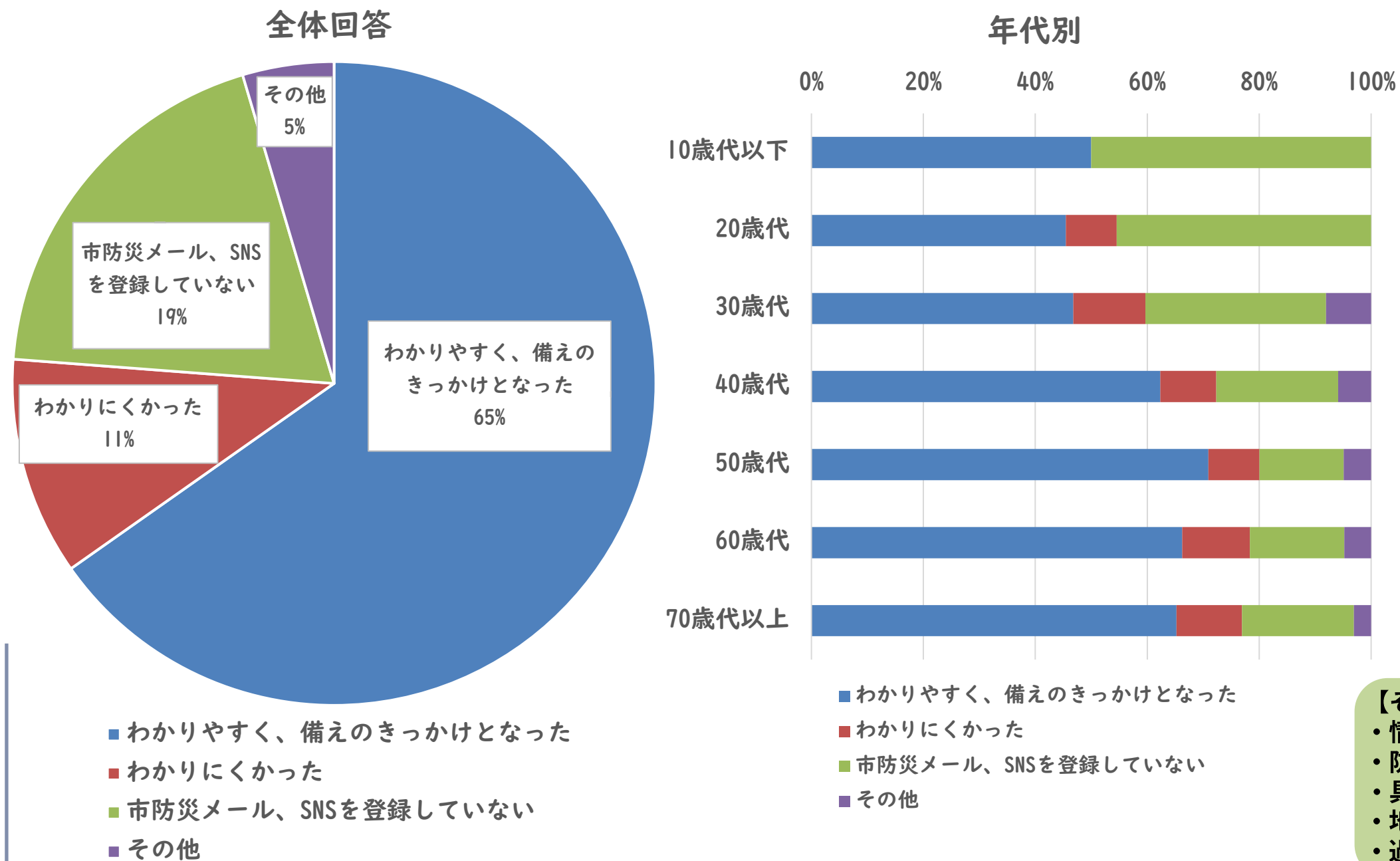


旅行を予定していた人のうち、
30%が当該注意情報を受けて
予定を変更



④【後発地震注意情報に係る、市の対応等に対する意見】

問13 後発地震注意情報発表後に市防災メールやSNSで市民の皆様へ注意喚起を行いました。
より分かりやすい表現で皆様の行動を促す内容を心がけましたが、内容についてお聞かせください。



「わかりやすく、備えのきっかけとなった」
65%

「防災メール等を登録していない」 19%
啓発の必要あり

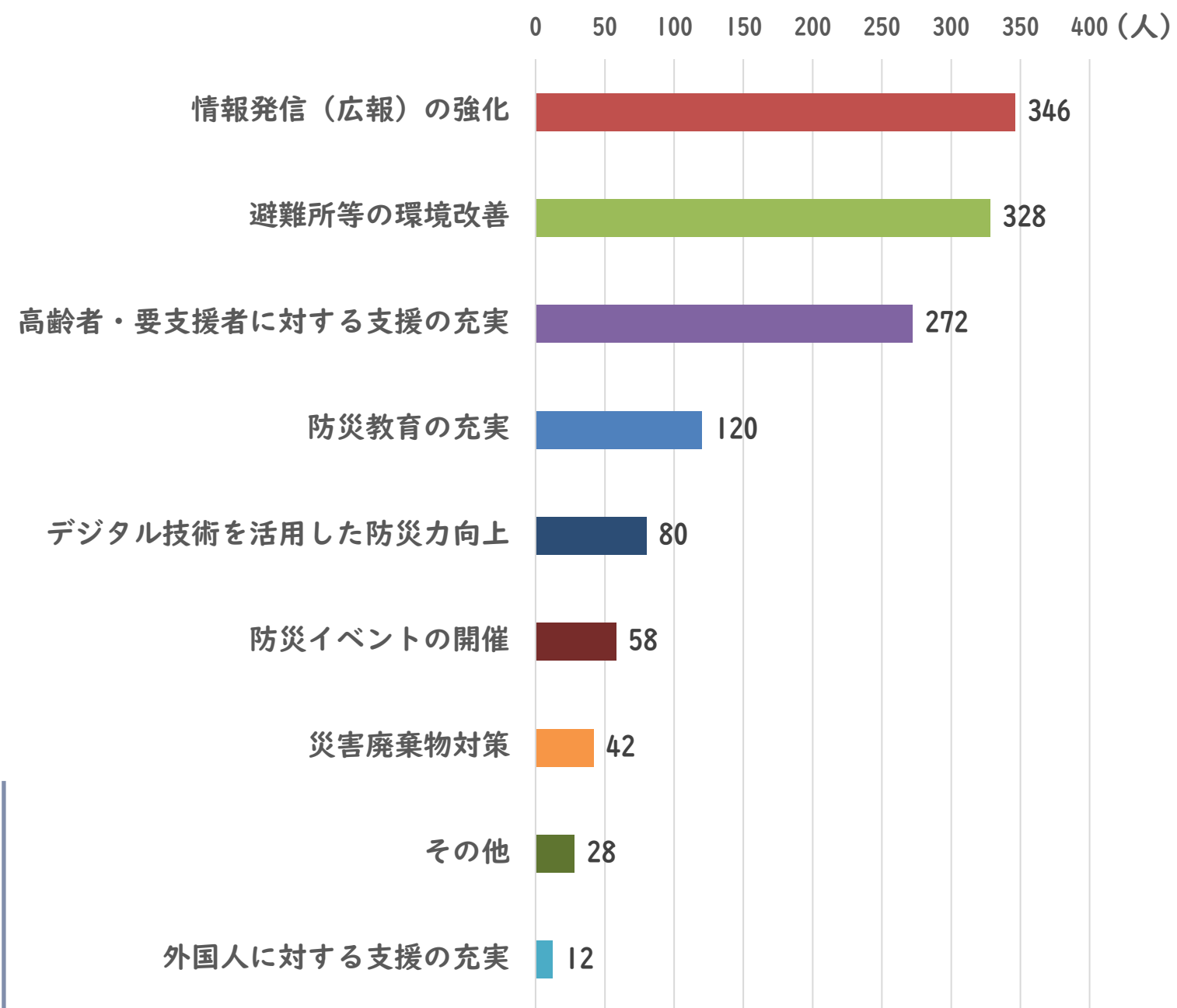
【その他】

- ・情報が多すぎる、わかりにくい
- ・防災メールが多すぎて重みが分からない
- ・具体的に何をすればいいか書かれていない
- ・地域ごとの情報が粗く、役に立たない
- ・過剰な情報で信用できない

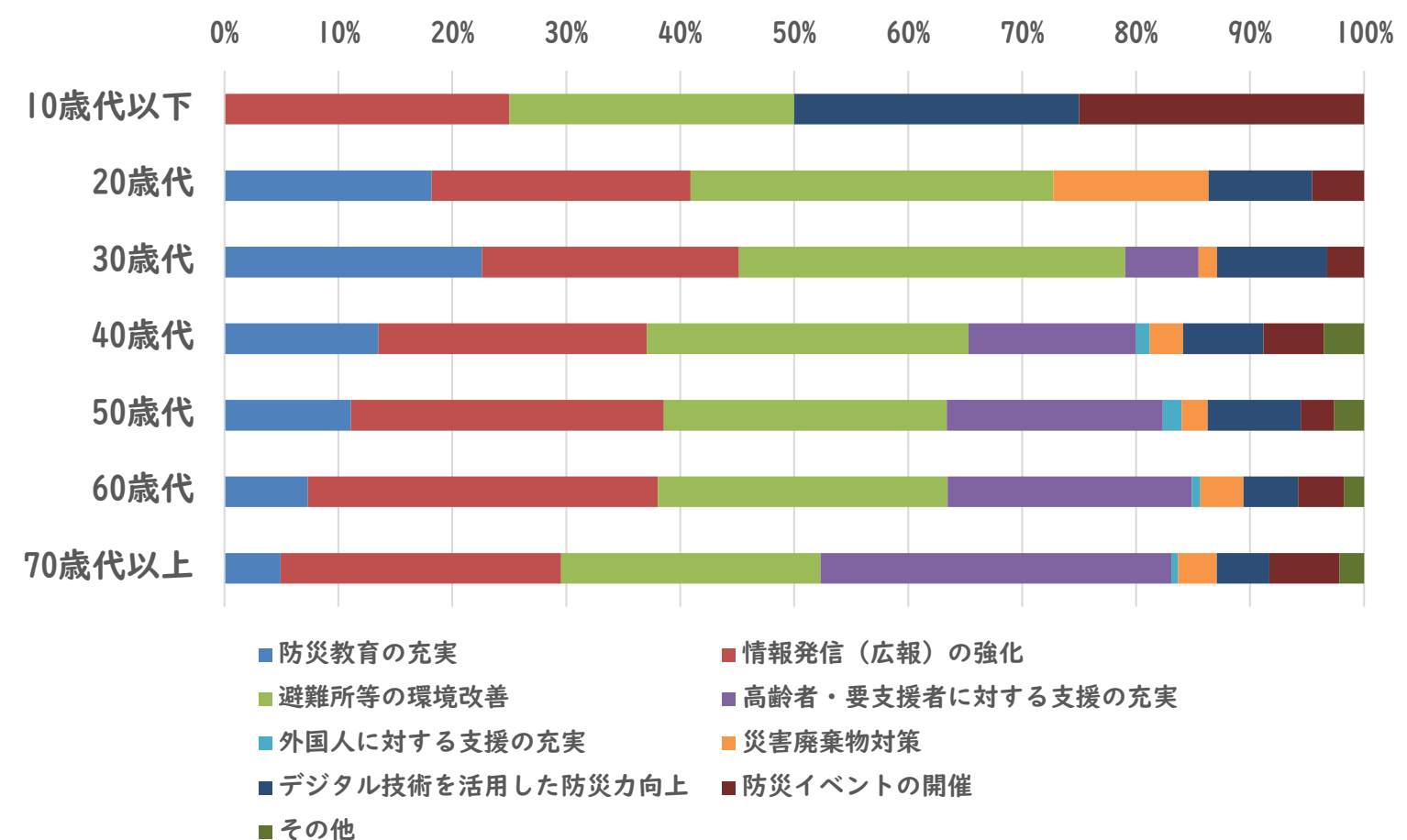
④【後発地震注意情報に係る、市の対応等に対する意見】

問14-1 防災行政で特に力を入れてほしい項目についてお知らせください。

全体回答



年代別



年代問わず、多くの方が
「情報発信（広報）の強化」
「避難所等の環境改善」
「高齢者・要支援者に対する支援の充実」と回答



④【後発地震注意情報に係る、市の対応等に対する意見】

問14-2 防災行政で特に力を入れてほしい項目についてお知らせください。

【その他】

1 情報伝達関係

「防災無線が聞こえない、内容が分からない」、「高齢者向けのアナログ情報の強化」

「メール・SNSの情報が多すぎて取捨選択できない」、「地域ごとの詳細な情報がほしい」

2 避難行動関係

「車避難の渋滞をどうにかしてほしい」、「住所ごとの避難所を明確にしてほしい」

3 ペット避難関係

「ペット同伴可能な避難所を増やしてほしい」、「ペット避難の環境整備が遅れている」

4 高齢者・障がい者・持病のある人への支援関係

「持病のある人への緊急時の処方支援」、「障がい者支援の強化」

5 防災インフラ・地域体制の強化（治水・堤防・地域運営）

「洪水を防ぐ治水事業の強化」、「道路・橋の耐震化」、「堤防整備」



④【後発地震注意情報に係る、市の対応等に対する意見】

問15 今回の後発地震注意情報の発表を受けて、市の対応等に御意見があればお聞かせください。

1 防災無線・情報伝達への不満と改善要望

最も多かった意見

「防災無線が風向きによって聞こえない」、「何を言っているのかわからない」「夜中じゅう鳴り続けて眠れない」など、
「聞こえない」／「聞こえすぎる」という両面の課題が指摘。
また、高齢者や障がい者など、情報弱者への伝達手段の不足も繰り返し指摘されている。

2 避難所環境・ペット同伴避難

「避難所が少ない」、「道路が渋滞する」、「徒歩では間に合わない」との意見があるとともに、避難所の環境については、「避難所のトイレの充実化をお願いします」、「体育館のトイレが汚くて使えなかった」、「ペット同伴避難の要望」といった意見が多くあがった。

3 要支援者への避難支援不足

高齢化が進む地域特性から、避難困難者への支援が強く求められている。
「高齢独居の為遠くの避難所には行けない どうすればいいのか知りたい」、「障害者をもっと大事にして下さい!!」等の意見のほか、「地域の支援体制（隣組・自治会）が機能していない」という意見も多くあがった。

4 防災教育・訓練の不足

学校・地域での防災教育の充実を求める声が多く、特に若者や子どもへの教育が求められている。
「学生にわかりやすい授業、体験を増やして欲しい」、「市民の防災意識が低いので訓練を開催して欲しい」との意見があがった。

④【後発地震注意情報に係る、市の対応等に対する意見】

問15 今回の後発地震注意情報の発表を受けて、市の対応等に御意見があればお聞かせください。

5 河川対策・治水事業への強い要望

夏井川・藤原川など、水害時の河川洪水災害への不安が多くあがっていた。

「夏井川対策等未だに終わっていない」、「藤原川に強く不安を感じています」との意見があがった。

7 備蓄・防災用品の負担感

防災用品の費用負担が重いという声が多く、市による備蓄配布や補助金を求める意見が多く、「防災用品の配布をご検討ください」、「物価高騰で買うのが大変な人もいる」との意見があがった。

6 行政への不信感・説明不足の指摘

「市は何をしていたのかわからない」など、行政への不信感も散見された。

また、スタジアム建設への批判も複数あり、防災より優先されているのではないかという意見があがった。

8 避難経路・避難場所の分かりにくさ

ハザードマップの分かりにくさ、避難場所の案内不足が繰り返し指摘されていた。

「避難場所が分かりづらい」、「防災マップの色分けが同系色でわかりにくい」との意見があがった。

アンケート結果を踏まえ、防災行政の改善に繋がます